

第6回町田市生涯学習審議会会議録

1. 開催日時：2024年2月8日（木） 10時00分～
2. 開催場所：町田市役所2階 会議室2-1・オンライン
3. 出席者
委員 吉田会長、依田委員、阿波野委員、仙北屋委員、鶴岡委員、
大澤委員、渡邊委員、喜田委員、小林委員、増田委員、西澤委員
事務局 生涯学習部長、生涯学習総務課長、生涯学習総務課担当課長、
生涯学習センター担当課長、図書館長、文学館長、
生涯学習総務課担当係長、生涯学習総務課職員
4. 町田市教育プラン24-28について
5. 市立金井中学校における地域連携の取組について
6. 生涯学習部の報告事項
7. 第7期生涯学習審議会について
8. その他

生涯学習

総務課長：お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

10月に開催しました第5回審議会では主に地域教育プランの原案についてご意見をいただきました。このたび、原案に係るパブリックコメントを実施して結果公表いたしましたので、今回はパブリックコメントでいただいたご意見について、概要と教育委員会の考え方をご説明するほか、現在進めている生涯学習部の事業等についてもご報告させていただきます。

会 長：早くも6回になり今期の最後になります。教育プランについては、審議会の中でも随分話し合っています。学校教育と生涯学習、あるいは社会教育を結んでいくという、すごく大きな理念の下でできているものだと思うので、十分にそこを踏まえて、もし何か質疑があれば、もうそろそろ決定だと思うので、ぜひこの際に理解を深めていただければと思っております。

最初に、町田市教育プラン24-28を中心に事務局から説明していただいて、パブリックコメントも含めて皆さんの意見も聞きたいと思っています。

事務局：資料1をご覧ください。

昨年度から生涯学習審議会にて説明をし、ご意見等をいただけてきました次期教育プランの原案につきまして、2023年10月1日から10月31日までの期間で市民意見募集を実施いたしました。

意見募集方法としては、「広報まちだ」への概要の掲載及び町田市ホームページへの資料掲載、町田市公式LINEでの通知のほか、市内公共施設において資料の閲覧、配布を行いました。また、市内公立小中学校及びPTAへの意見募集のチラシの配布、児童生徒が使用するタブレット端末へのブックマーク登録を行いました。

資料の閲覧、配布及び意見提出窓口は市庁舎をはじめとする市内公共施設に設置いたしました。設置箇所につきましては、資料をご覧ください。寄せられましたご意見につきましては、全体で19名の方から59件の意見をいただきました。うち、生涯学習関連分につきましては3名の方から1件ずつ、計3件のご意見をいただきました。項目としては、基本方針Iの移動図書館について1件、基本方針IVの学校施設の活用について1件、生涯学習・リカレント教育について、1件のご意見をいただいております。

パブリックコメント実施結果の公表につきましては、1月15日に町田市ホームページで公表しており、資料に添付しています二次元コードからも該当ページをご覧くださいことができます。なお、ホームページでは学校教育関連分も含めた全ての意見を公表しております。

資料の2ページ目をご覧ください。今後のスケジュールについてです。今後は3月の市議会において行政報告、計画を公表する予定です。生涯学習関連分に寄せられた3件のご意見につきまして、町田市教育委員会の考え方を示しております。取りまとめの都合上、いただいたご意見につきましては要約し、掲載しております。

まず1件目は、移動図書館についての内容ですが、移動図書館は図書館空白地帯を補うための重要なサービスであるため、老朽化している移動図書館車の更新が必要であるとのご意見です。こちらにつきましては、今後の事業を進める際の参考とさせていただきます。

2件目は、学校施設活用の推進についての内容です。現在、「まちとも」や学童保育、放課後英語教室などにより放課後の学校施設が使用されているため、競合した場合に優先させる事業についてのご意見をいただきました。こちらにつきましては、現在、学校施設の活用推進に向けた検討を進めており、子どもの体験活動を優先し、これらも含めた学校施設の利用に関する仕組みづくりについて検討

してまいります。

3件目は、生涯学習やリカレント教育について、市の施設だけでなく市内及び近隣の大学と連携した学べる環境をつくるべきであるとのことご意見です。教育委員会としましては、生涯学習やリカレント教育については市内及び近隣の大学と連携しながら、その充実に努めてまいります。

また、資料2につきましては、町田市教育プラン24-28の最終的な原稿をイメージしたものです。現在、誤字脱字のほか、文言の整理など最終的なチェックを行っております。今後、軽微な修正等が生じることがありますが、現時点でのものとして参考にお配りさせていただいております。内容につきましては、基本的にこれまでお示ししたものと同一であるため、この場での説明は省略させていただきます。

資料の説明は以上です。

会長：今までずっと話をしてきましたが、パブリックコメントが出まして、この件数は果たしてどうなのかと思いますが、この手のものはなかなか集まりにくいと思います。それでもいろんな意見が出てきているのはいいことだと思います。市民の意見を結構大事にしている雰囲気が見られます。いろんなところでパブリックコメントを求めるといこともよかったと思います。

教育プラン24-28はアドバイザーや評価委員として関わった中で、教育プランが学校教育と生涯学習をうまく融合して、社会教育と学校教育ですが、生涯学習という範疇の中でうまく融合していると思います。これからもまだ変化の時代ですので、いろんなところでいろんなことが入ってくる可能性はありますが、取りあえず1つのものができたかなと思います。ここでは皆さんからご意見をいただければと思います。

I 委員：112ページ、「安心できる通学環境の整備」について、113ページに写真があり、横断抑止柵という名前を初めて知りました。通学路で防犯カメラは見かけますが、子どもたちを犯罪から守る抑止効果があると感じています。安全が一番大切だと思っています。

生涯学習

総務課長：ご感想ありがとうございます。担当課にもしっかりと伝えさせていただ

きます。

J 委員：資料1について確認したいのですが、ホームページに実施結果で書いてありますが、このパブリックコメントの意義と目的をもう一度、市から説明していただきたいというのが1つ。それと、資料1に人数と件数が出ていますが1名で最大どのくらい出しているのか。つまり、1名で20本も出している人がいるのかという懸念があったので質問しました。あとは、このパブリックコメントは認知度が低いと思うのですが、私が感じたのは、市の広報には結果は出ていたのですが、認知度が低い割に、やっていますという公表があまり見受けられなかった。その辺のお話も聞きたかったです。もう一つ気になるのは、実施結果についての冒頭で、ご意見は、今後、市の行政に参考にさせていただきますと書いてあります。あくまで参考です。これは多分、行政法で決まっているのだと思うのですが、1つは、案の段階で公表すること、認知すること、もう一つは、市民の実態に合わせて計画をつくることと私は思っているのですが、その辺の反映度というのは、これからどこでどう検証したらいいのかちょっと分かりませんでした。

事務局：まず、パブリックコメントの大きな目的ですが、今回のプランにかかわらず、市の様々な計画につきまして、策定途中の過程で情報を広く公表して意見を募集して、その意見について市の考えを公表するといった一連の手続のことをパブリックコメントの制度として行っております。確かに、全てのご意見に対して、それを取り入れるといった性質のものとは若干異なりますが、もちろん意見として、事業を進める上では、それを反映したものにしたいということで市のほうでは進めているものです。

また、今回19名の方から59件で確かにお1人、複数のご意見をいただいているという事例があります。

生涯学習

総務課長：パブリックコメントの周知については、実施前に工夫するよう意見をいただいております、LINEなどチャレンジングな取り組みも行いましたが、いただいた結果はこの件数だったということで、これもまた踏まえて、いろんな市の計画があるので、これを参考にしてくれる課もあるかと思えます。計画に関しては、市が今後5年間どのようにやっていくかという姿勢を市民の皆さんにお知らせする機会ということ

で、こちらがしっかり活用できているというか、しっかりやらなければいけない、パブリックコメントとかもそうなのですが、この後、しっかり実施して、また、その実施の結果を毎年公表していくというのも大切かなと、今回感じました。

J 委員：1つ、先程これから反映していくという話の中で、パブリックコメントの大体の内容はホームページに載っているかと思うのですが、私は先生のご意見らしきものがすごく目につきました。それも、学校の端末のブックマークに入れている様なので、当然、先生には話が伝わっていることだと思います。後、私はよく分からないのですが、今先生の仕事の実態が大変多忙なのだと思います。そういう大変さから意見が出たのだと思います。それを参考ではなく、できるだけかなえてあげていただきたいと思いました。

会 長：情報の共有と、なかなか難しいのですが、考えていく段階、プロセス段階の公開がかなり求められています。国は、いち早く審議会の様子をZoomとかで配信しています。あまり多くの人が見ていないというのが事実なのですが、それをやっているということがすごく大事なので、今後どうなるかは分かりませんが、例えば審議会も、傍聴だけではなくて、ウェブ上で配信するようなことも今後やっていく必要はあるだろうと思います。なかなか難しいと思うのですが、本来はそのような時代なのかなと思います。いただいた意見については、実はいろんなものが本当はパブリックコメント、市民からの意見は足せるのです。具体的には、今年、小学校の教科書採択がありました。この教科書採択については、採択の委員がある程度資料をつくって、最終的には教育委員会で採択されるわけですね。だけど、それがどうなっているかはよく分からないのですが、市民のコメントというのもあって、結構それが反映するということがあります。実際には、来年また中学校の教科書採択があるわけですから、ご興味がある方はぜひコメントをしていただくといいと思います。我々市民の側も、そういうことをきちっとやっていくことも大事なのかなと思います。でも、一生懸命広報した割には人数が少ないというのが現状の課題だと思うので、今後、一緒に考えていく必要があるかと思っています。

B 委員：生涯学習に関わる場所の議論は以前の審議会で十分したところな

ので、内容そのものに関わることではないのですが、言葉の定義のことで、23ページに「デジタルトランスフォーメーションの加速化等に伴う」と書いてありますが、「加速」の言葉の中に変化の意味が込められているので、一般的には「加速」なのではないかと思います。この表現が何度か、このページ以外にも出てきますが、あえて「加速化」とされている背景があるのかどうかということを確認したいです。

生涯学習

総務課長：正直なところだと、そこまでの検討があったかというところが、まず確認ができておらず申し訳ありません。今現状、加速しているという状態を表すという思いで「化」をつけたというふうには推定できますが、一旦、担当者にも改めて確認をいたします。

会長：B委員のおっしゃるとおり、DXはデジタルトランスフォーメーションですので、それ自体がもうそれを行っているということなので、「に伴う」だけで全然問題なく「加速化」も要らないと思います。そういうことで、この問題は結構大きいことは大きいと思っています。それに伴って様々なことをやっていかなければならないのは本当に明らかだと思います。ちなみに、様々な横文字や理解しにくい用語についての解説もぜひやっていただければと思います。部分的には、OODAループとかPDCAサイクルは反映されていますが、それ以外のものも解説をしていただくといいかと思います。この教育プランは2028年度までありますので、毎年更新や見直しをある程度していくと思います。評価、また次につながるという方法をしていくと思うので、引き続き見ていきたいと思っています。

次に、金井中学校における地域連携の取組についてD委員にお話しいただきたく思います。

D委員：それでは、金井中学校でやってきた町田市のことに関してのいろいろな調べ学習、そういうことをどうして始めたのかというところからご説明していきたいと思っています。私が生涯学習審議会に関わらせていただいて、よく話が出てくるのが、学校と生涯学習とがうまくリンクしていないのではないかという話でした。皆さんとお話をしてきて、大分それが進んではきているのですが、ここでの会議の中ではもっともっと学校に入れたほうが良いと話しているのですが、残念ながら、

学校サイドでは、正直なところを言って、そんな暇はないという感じになっています。私たち教員は町田市から異動して、ほかへ移っていきます。でも、子どもたちにとっては、この町田市が自分のふるさとで、一体ここに何があるのかということ結構知らない。自分の家の周りぐらいしか知らない子もたくさんいます。またそこから移っていってしまえば、ほかのところに自分たちの拠点が移ってしまう。そうならば町田市自体がだんだんと人口が減っていってしまうのではないかと、私たちが学校では考えていました。であるなら、やはり町田のことをもっともっと子どもたちと考えるべきではないかと、いわゆる町田学というものをやれないかとずっと模索しながらやってきました。今回の町田のことを調べる前に、実はあまり知られていない町田の施設について、まずは紹介していこうと、生涯学習総務課さんをお願いをしました。

実際に生涯学習総務課さんに学校に来ていただき、最初にその施設から、ちょうど学校にグーグル、いわゆる端末が入ったときで、そこに移せないかということで、それをまず試しでやりました。結構子どもたちは知らなくて、興味を持って見てくれました。その後、今度は町田市が歴史に関してすごくいろいろなものを持っているという紹介を、再び生涯学習総務課さんでしていただきまして、これは皆さんにもご紹介をしましたが、金井中学校は、遺跡の上に建っているということを紹介していただいて、子どもたちはもうびっくりという感じで、鶴川地域が結構そのような場所に建っている。いろいろなところにそういうものがあることが分かってきた。そういうことを勉強させていただき、更にもっと進めてみよう、今回やることになったものへと移っていきました。

それでは、資料3を見ていただきたいと思います。そこに地域連携の取組についてまとめていただきました。町田市内であれば、いろいろなところを知っていこうということで、町田市内の施設や自然、歴史を探訪しようということで始めたものです。

まずは子どもたちにいろいろな場所を調べさせて、そこを夏休み中に見学に行かせました。そして、自由民権資料館さんともいろいろとコラボさせていただいて、後の資料に「まち歴」が出てきますが、これが愛称になって、ここで決まってきたものですが、そういうのを考えることも一緒にやらせていただいて、自由民権資料館さんのような場所をもっともっと見ていこうと、子どもたちに夏休み中、見学に行かせて、それをまとめて、それでは、自分たちで、言ってみれば旅行

ガイドをつくろうということで始めたのが、町田Quest2と書いてあります「町田市日帰りお散歩プラン」を作成しよう！というものです。

内容は、ナビタイムトラベルを活用して、町田市日帰りお散歩プランを作成する。設計上の決まりは、出発、帰着は、金井中学校か町田駅。活動時間は、日帰りのできることに。交通手段は公共交通、また、車、徒歩、自転車。そして、昼食場所を必ず入れる。作成したプランを子どもたちが自分の端末でつくっていくということをやらせてみました。今日ご紹介するのは、幾つかの代表で実際には班で全員がつくっています。学校の中で、それぞれのクラスでプレゼンテーションをさせて、それを子どもたちが投票で選んで代表を出しています。それをまた絞り込んだ形でやったのが今回紹介するものです。

最初は、生徒Aの「町田で遊びつくそう」です。そこに計画が出ています。金井中を出発して、そこに書いてあるように、薬師池公園からスタートとなります。薬師池公園自体がうちの学校から結構近いので、今回、薬師池公園を入れている子が結構多いです。車での移動をこの子は考えています。まず薬師池公園に行き、そして、四季彩の杜西園に行って、町田リス園、民権資料館、昼食場所は味の民芸本町田店にして、芹ヶ谷公園に、少し離れた場所に移って、最後、国際版画美術館に行って、金井中に戻るというコースをつくっています。それでは、実際行ってどういう感じかということで、資料には写真が出ているかと思えます。薬師池公園のウェルカムゲートでいろいろな場所を見ていくということですが、この辺で一番面白いのは、子どもたちの視点というのが少しずつ大人と違って、大人ですと、そこに出ている風景とかがいいなと思うかもしれませんが、子どもたちもいいとは思っているのですが、そこで出てくる食べ物に興味を持っています。アイスクリームの中で一番安いものはどれでしょうというクイズを出します。正解は一番右側のもので、これが一番安いとのこと。やっぱり子どもなので、このような視点を入れてくる。これを発表すると結構盛り上がります。そして、次はリス園です。リス園は皆さんもよくご存じかと思いますが、学校からも歩いて行ける場所なので子どもたちにとっては一番人気のあるところではないかと思えます。そして、その次は自由民権資料館、そして、味の民芸を入れています。自由民権資料館さんは、いろいろと交流を持たせていただいているので、子どもたちにとっても結構身近になりました。これはすごくよかったと思います。味の民芸でご飯を食べて、そして芹ヶ谷公園、町田

市立国際版画美術館に移るということです。これをやるだけでもかなりいろいろな場所を紹介することができます。そして、版画美術館の中で見た版画で問題が次に出てきます。どちらの絵がどちらの作者か考えてみてくださいと、問題と正解を出しますが、こういうことをやることで子どもたちも興味を持って、では、自分も行こうかという気になるということを考えていると思います。そして、最後はお散歩プランの魅力で、このプランは自然が味わえる、勉強になる。それから、遊びがいろいろなところでできる。2,000円で全部上がるというのは、この子の売りみたいですよ。

次、生徒Bも学校を出発してからリス園、薬師池公園、本町田遺跡、ご飯は、ここは節約をするためにセブン-イレブンで食べます。そして、遊歩公園を周り、自由民権資料館に行って、駄菓子屋に行って学校へ戻ってくるというコースです。やはりリス園は必ず入ってきます。そして薬師池公園、薬師池公園は場所的に近いというのがありますが、名前もかなり知られているので、子どもたちもよく知っていますよね。それから、本町田遺跡が入ってきております。そして、セブン-イレブンでご飯を食べて、遊歩公園、これはちょうど学校の近くの、薬師中も近いのですが、遊歩公園という公園がありまして、ここは子どもたちがよく遊ぶ場所だから入れているのだと思います。そして、自由民権資料館さんに行って、最後は、近くに唯一ある駄菓子屋に行くというコースです。最後に子どもたちがコメントを入れています。このお散歩プランではただただ自由民権資料館に行くだけでなく、ほかにも公園や駄菓子屋などに行けてよく、移動は自転車で行うので財布が痛くならないのも魅力です。お昼ご飯はそれぞれがセブン-イレブンで好きなものを買え、幅広いバラエティーの食材の中から選べます。さらに、本町田遺跡や自由民権資料館は訪れると歴史で習ったことと関連づけ楽しめると思います。全て無料です。なかなか子どもらしい視点ではないかと思えます。

生徒Cは、動物癒やされプランとして、南町田グランベリーパークを中心にしています。まず、南町田グランベリーパークに金井中学校から行きまして、その中での活動になります。癒やされるということで、まず猫カフェMOFF Fアニマルカフェに行って、そして、ここで猫と戯れる。そして、タックルステーキでお昼を取って、やはりリス園に戻ってくるというところで、結構遠いので時間がかかるのではないかと思います。最後に魅力として、学校や勉強などストレスや動物が好きな人にお勧めです。また、南町田で自由時間があるため運動や

映画鑑賞、ゲームセンター、買物など様々なことができます。また、猫、牛、フクロウ、リスなどと身近で触れ合うには難しい生き物がいるのもポイントです。しかし欠点があり、フクロウカフェは午後からのため南町田と町田を行き来することです。お金が無駄ですと書いてあります。全部行けとは言わないので、フクロウカフェは行ってみてください。鋭い目つきの中にかわいさがあふれて溶け込まれるらしいです。ちなみに僕は行ったことがないですと書いてあります。

最後、生徒Dのまちだお散歩コース！プランです。こちらも薬師池のウェルカムゲート、パンパティで、パンを買って、八王子との境辺りまで行っている尾根緑道です。そして、カフェラマッキナでクレープを楽しめると書いてあります。薬師池公園のラボでは料理教室などもすることができます。これがまちだお散歩コース！です。

今4つ、ざっと説明をしましたが、ちょっとずつ大人と子どもの視点の違いが分かるかと思います。これをやったことで何がいかというと、子どもたちが町田のいろいろな場所を知ることです。それで子どもたちがきっと、いろんな場所に行くことで町田というのをもっともっと知っていくことの1つの試みになったかなと思います。この試みを、ほかの19校がやればもっともっと広がるわけです。実際にこれが始まったきっかけは、生涯学習審議会です。ここでいろいろなことを知って、私もいろいろ先生方に提案を試してみました。以前の生涯学習審議会で紹介しましたが、生涯学習センターでやっていた原爆のお話の竹中さんをお招きして学校で話をしてもらった。それをほかの学校へも紹介して、3校、4校と、今、竹中さんは呼ばれて行っています。このきっかけは全て生涯学習センター、もしくは生涯学習審議会ということになるわけです。

私が理想としていたのは、学校と生涯学習審議会がつながるということだったので、ある程度の成果は出せたのではないかと思います。ぜひ今後も学校とつながっていただいでやっていけば、今回出てきた教育プランの1つの部分は達成ができるのではないかと思います。

会 長：なかなか面白い、ユニークな遠足ですね。これは総合的な学習の時間を使っているのですか。総時数、グループの人数はどのぐらいなのかを教えてください。

D 委 員：使っているのは、総合の時間です。総時数は、6、7時間は使っています。夏休みを使っていますので、それを入れるともっと増えると思

いますが、まとめている時間は大体そのぐらいでやっています。それから、1班は大体4人ぐらいでやっています。あまり多いと、なかなかまとまらないので少人数でやる形を取りました。

会 長：夏休みはどのように使っていますか。実際に行くのは平日ですか。

D 委 員：施設の休みを避けて夏休み中に行ってもらった形でした。

G 委 員：私たちも去年、中学校で授業をさせていただいたので、そのお話もちょっとさせていただければと思ったのですが、すごくいい試みなので、いろんな中学校に広がるといいなと思いました。しかし先生方はとてもお忙しいので、新しいことをやるというのが結構大変だと思います。どういうタイミング、形でその学校に情報が入ったりすると取り組みやすいとか、こういうアプローチだと取り組みやすいみたいなことがあれば教えていただければと思います。

D 委 員：学校はやることだらけで本当に忙しいです。ただ、それだけやっているとすごくつまらない学校です。勉強と時間に追われるだけなので、その中にこういうことを加えていくことで子どもたちの顔色が変わります。絶対必要なことです。ですので、私は校長会でどんどんアピールしています。その中で、G委員のようにやっていただいて、中学校でこういうのはどうですかと言っただけであれば、こちらから紹介をすることができますので、校長たちにそういうのをアピールしないとやりません。ただ、興味は持っています。やらなきゃいけないと思っているが、はっきりしたものがなくて手を出しにくいというのがあるので、アピールは具体的なことがあると、よりいいかもしれません。

G 委 員：去年、南成瀬中で地域の活動について中学生に話してほしいということで、授業としてやらせていただきました。1学年全員が体育館に集まって、最初の1回目は、地域活動はこういうことだという講座を我々のスタッフがやって、2回目は、実際に活動をしている市内の活動団体4団体ぐらいに来ていただいて、4グループそれぞれ好きな団体を選んでいただいてお話をいただく。保護猫の活動をしている方とか、環境の活動をしている方。さらに、授業ではないですが、中学生の希望者だけを対象に「まちカフェ！」の日に取材に来ていただくというプログラムをやらせていただきました。私たちは、希望制なので、

取材に来る子はいないのではないかと思っていたのですが、結果、校長先生と担任の先生が引率してくださって30人ぐらい中学生が来てくれて、有志の子たちが取材をして、それをまとめたレポートを提出してくださいました。それをおうえんルームに掲示したら、取材された団体がとにかく喜んでいて、自分たちの活動を中学生がすごく素朴な質問をしてくれたことを大変どの団体も喜んでいました。中学生には「まちカフェ！」の参加団体の冊子を渡して好きな団体を選んでいただいたのですが、結構意外な団体を選んでいました。視点が中学生は大人と違う。大人が思う中学生像と結構違ったので、そこは大人にとっても結構発見があったと思いました。そういうことも広げていければいいなと思っております。

生涯学習

総務課長：金井中学校に今回ご協力いただいたのは、金井中学校で活動されているボランティアコーディネーターにお願いして、校長先生もすごく前向きに取り組んでいただけだったので、しかも、すごく歴史好きの先生がいらっしやって、いろいろまくいった例ではございます。ボランティアコーディネーターの方にご協力いただくと、すごく話がしやすいかなというのありました。

F 委員：大変興味深いと思いますが、1つテーマをある程度意識させて、例えば、町田の何々についてみたいな形で、そのテーマについていろんなことを深めていくという方向性もあり得ると思います。それをしていく上で、生徒たちに、例えば、町田にある文化施設、遺跡など、そのようなものをある程度、カタログ化して、それで事前に提示しておいて、どういうものを組み合わせながらこういうふうなプランをとというようなことで生徒たちが工夫していくという行き方も考えられると思うので、学年に応じて当然またいろいろと違ってくるとは思うのですが、1つそういうやり方もあるかなと、参考までに紹介させていただきました。

会 長：体験活動を通した本当にプロジェクトベースの学習になりますね。

D 委員：まさしくその点のところはとても大事なところで、ある程度絞り込んだ形で調べさせていくのはとても大事だと思います。今回は自由な形でやらせましたが、今後、そのようなことも考えております。その1

つのきっかけとして、F委員のお話の部分を少しでも意識させるために、町田かるたをやりました。この町田かるたは学校に配られています。この中身は群馬の上毛かるたを基にしているそうです。そこに町田のいろいろなことが紹介されています。歴史的なことも入っていて知らないことが結構あります。これは玉川大学の学生さんに絵を描いてもらって、子どもたちは、ここへ行ってみたいと興味を持ったので、とても役に立ったと思います。

B 委員: とても楽しいプランで、大変感心しながらお話を伺いました。それで、D委員から子どもたちに地域への愛着をというお話が出たときに、ふと思い出したことがありました。町田のインキュベーションセンターの主催だったと思いますが、ビジネスコンテストにプランを出す関係で町田の年代別の人口動態を調べていたときに、20代前半ですごく増えますが、20代後半で減ります。それでまた30代になると、多分、家族連れなどで増えてくるということだと思います。町田市内にはたくさんの大学や専門学校がありますので、20代前半の人口が増えると思うのですが、その後、皆さん違うところに移ってしまうのではないかとことを思い出しました。

私は相模原市の大学で教えていますが、大学生たちは、意外と大学のある町の中で楽しむですとか、その町のことを知ることがあまりなくて、学校と家を行ったり来たりで、アルバイトはするけど、意外と町のことを知らないです。でも、町田市は20代前半の人口が明らかに増えていますので、ぜひ大学生なども、ちょっとしたツアープランをつくることによって、町に触れることができると良いと思いました。それ以外にも、引っ越してきた人ですとか、地元の人でも町のことを知らなかったりしますので、大人の人がこれをやっても、大学生を含め、学びも多いでしょう。徳島県の神山町では町民向けの町内ツアーを随時やったりしています。新たな地域への愛着が生まれる可能性のある取組だと思って拝聴いたしました。

会長: 都市社連協でこれを発表するといいいと思っています。今まで社会教育も生涯学習も全部大人が目線で考えていたが、子どもたちが入るともっと違うことができたり、違う目線が出てきたり、よりアトラクティブなものになったりする可能性があります。神奈川県のアトラクティブなものをやっています。なかなか面白くて、たまたま講演に行ったときに知ったものです。すごく歴史などをトータルに子どもた

ちに教えるというものですが、教えるというのも、もちろんすごく大事だと思うけれど、子どもたちが自ら発見したり、見つけたり探したりするという、プロジェクトベースの学習は授業中にやらないといけないし、単位に入っているが、夏休みは基本的に子どものものでから自由にやれます。うまくこれが絡むと、すごくいいなと思いました。私の息子は、町田高校の卒業生で町田にはかなり愛着がありまして、時々行っています。古着屋さん、面白いラーメン屋さんとか出かけていっています。高校時代がとても楽しかったと思うが、そのような意味で愛着を持つ町田をつくっていく意味でもすごくいいなと思っています。ぜひこれは継続できるといいですね。

E 委員：保護者目線での意見として、D委員にお伺いしたいのが、これを保護者には、何かお伝えしたりとか、このようにやりましたとか、結果を保護者にお知らせしたりしたのでしょうか。

D 委員：こういうことをやりますと、年中、学校公開をしています。なので、いつでも見に来てくださいと公開しています。ただ、なかなか来られませんので、全て学年日よりと学校日よりで、こういうことをやりましたというのをお知らせしております。

E 委員：私は成瀬台中学校なので、ぜひやってもらいたいなと思いました。ただ、校長先生は八王子からいらした先生で、町田にまだ愛着というか、まだ町田のことを知らないと思います。そういった先生が多いので、こういった取組はうちの学校では難しいのかなとか、やはり町田市に住んでいる子どもたちが全部同じような教育を受けられるのがベストなので、小学校では町たんけんといって地域のことを一緒に先生とみんなでそろそろ行って探検をするのがベースなのかなと思いました。うちの学校ですと中学校2年生か3年生で都内とか横浜に、自分たちでプランを立てて、自分たちの力で行って帰ってくるのをやっていますが、それはこれがベースになるのではないかと、いろいろ聞いていて思いました。

先ほど人口のお話がありましたが、私自身も実はずっと町田に住んで、成瀬台小、成瀬台中、小川高校で、1回、大学で出ましたが、また子育てで戻ってきて、実際、子育てをしたときに、リス園だったり、薬師池だったり、昔、自分が連れていってもらったところに今、子どもを連れて行こうと思って連れていった経緯があるので、ぜひこうい

うのを保護者にアピールして、保護者にも町田を知ってもらって、いろんな遊ぶところがあるというのを、いつでも情報が得られるようなところがあればいいのかなと思ったので、ぜひ校長会でもっとアピールしていただきたいです。小学校でもこういったものがあるというのをもっと町田市も協力してやっていただくと、こどもの国ばかり混むのではなく、リス園、薬師池とかがもっと身近になってほしいなと思いました。

A 委員：多世代交流が1つキーワードになってくると思っています、このプランを見せていただいたときに、すごくわくわくした気持ちになりました。最初は自分用のプランを考えて、次の段階として、大学生が行ったら、高齢者が行ったら、どんなプランができるだろうか考える。例えば、高齢者の場合は、歩いた歩数をつける、坂道はちょっときついから、自分用プランとは違うルートにしようとか、小学生だったら、駄菓子屋さんに寄ると楽しいかなとか、いろんな多世代を思いやる気持ちにもつながるのではないかな。このつくったプランをぜひほかの世代が行ってみたいというツアーになったらいいと思いました。

会長：このプランは教育プラン24-28の1つのイベントみたいな感じになるかもしれないですね。生涯学習に詳しくコミットできるD委員だからできるというのものもあるが、やっぱり様々なリソースが町田にはあるわけですから、そのリソースをうまく活用した教育活動をやっていくといいと思いました。PISAの学力が今度上がったとか、下がったとか言っていますが、それはそれとして、やっぱり非認知的能力とか体験から学んだこととか、そういったものが非常に重要視される時代になりつつあるので、あまり学校の中だけではなく、もっと楽しく、いろいろ外に出て行ってやれるといいですね。そういう学校になっていくといいなというふうには思う次第です。
次に、生涯学習部の報告事項について事務局からお願いします。

生涯学習

総務課長：それでは、資料4-1をご覧くださいませでしょうか。

毎回、お伝えしております生涯学習部の報告事項ということで、教育委員会定例会、町田市議会に関する情報をこちらに載せております。今回、各生涯学習部の課長から主な事業について後ほど報告をさせていただきます。町田市議会定例会についても、一般質問とい

うのがありまして、3つご意見をいただいております。後でお目通しいただければと思います。

それでは、資料4-2をご覧くださいでしょうか。あと、緑色のチラシが一緒についていますが、こちらは自由民権資料館の展覧会のご案内です。町田自由民権カレッジという講座がありまして、市民の方がテーマを選んで資料を探して研究し、その成果を卒業論文としてまとめる歴史講座です。受講期間は3年間で、これまでに、2009年に始まり、1期生から4期生まで61名が卒業論文を執筆して、卒業されました。本展では、町田自由民権カレッジ4期生の方々の卒業論文の展示を行っております。チラシの裏面をご覧ください。ここに展示テーマが8つ、記載してありますが、2月12日と17日と24日、14時から受講生の方々が自らの展示についてのギャラリートークを行います。この講座ですが、今回、4期まで実施したところですが、この3年間という受講期間を終了することがなかなか難しい状況になってきておりまして、もう少し間口を広げるといふか、町田の歴史を知ってもらうきっかけの講座を増やしていこうということで、2024年度から新たにまち歴としていろんな講座をスタートさせております。そちらの資料もつけさせていただきます。

資料4-3、まち歴「“町田”の片隅で選挙と日本国憲法をたぐりよせる」、こちらも新しく始まった講座ですが、この講座ですとか、その裏面にございます、まち歴、9回、10回、11回、こちらも「石に刻まれた薬師池の歴史」、「高ヶ坂石器時代遺跡」、「文化財レスキュー体験ワークショップ」など、様々な講座を予定しております。2025年度も内容を更新しながら市民が町田の歴史に興味を持つきっかけとなるように、まち歴講座などに取り組んでまいります。

図書館長：資料4-5をご覧ください。

鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況についてご説明いたします。図書館では将来にわたりまして図書館サービスを継続、持続していくために公共施設の再編計画と図書館独自の図書館サービスのアクションプランに基づきまして、図書館の再編の検討をいろいろ行っているところでございます。その中で、鶴川図書館におきまして再編をして、図書コミュニティ施設をつくっていくのですが、そちらにつきまして、運営団体がここで設立されま

して、それに合わせて施設の改修を行っておりますので、そちらをご報告いたします。

まず、図書コミュニティ施設の運営団体で、一般社団法人つるか
わ図書コミュニティ施設運営協議会を設立させていただきました。
11月21日に設立してございます。設立時社員、会社で言えば取締役
みたいなものですが、こちらは地元の鶴川地区協議会と町田市が
こちらの社員となっております。実際、役員の方々を理事と呼び
ますが、理事の方が5名と監事の方1名の計6名の方がいらっしゃ
いまして、こちらは鶴川の地域で活動する団体の代表の方や、鶴川
図書館の周辺の自治会の代表の方などで構成しております。

図書コミュニティ施設への転換を行うために施設の改修を行って
おります。別紙1も併せてご覧ください。図面になっております。
2023年9月30日と10月1日に鶴川団地で秋祭りが開催され、
そのときに、新しい施設をどうしたらいいかということをも
模型を持って行って、皆様からいろんなご意見を伺っております。
このお祭りで103人の方からご意見をいただき、それを基にして施設
改修を実施しまして、今ちょうど始まったところでございます。

3番の施設改修に伴う休館について、ちょうど2024年2月1
日から3月11日まで休館し施設を改修しております。休館期間中
で図書館が使えなくなっているのですが、図書館で予約した本を受
け取れるように、図書館の向かいの部屋も借りておはなしの部屋に
しており、そこで予約した本を受け取るような形をつくっております。
図を見ていただきますと、イメージが分かりやすいかと思いま
すが、今は現状レイアウトという下の段にあるものですが、小さい
図書館ですので、本棚がぎっしりという形で今までやっておいま
した。こちらをコミュニティ施設にする関係で少し中身を整理しまし
て、入って左手側の本棚を減らしまして、そこに椅子、机を置いた
り、取っ払ったりもできるようにして、ここをコミュニティ施設と
して使っていこうと工事をしていると思っていただければ結構で
ございます。ちなみに、この机と椅子につきましては、取っ払った本
棚の材木の使えるところを使って直していただいておりますので、そ
ういうのも無駄にしないでいくということで、本棚の木は丈夫で
いい木なので使いやすいところもございます。

最後に、今後のスケジュールをご説明いたします。2024年4
月、運営団体によるコミュニティ機能の運営を、図面で言う左上の
部分がコミュニティ機能で、その他の部分を使ったりもできますが、

それを実際に運営し始めて、民設民営化を2025年度から始める予定ですので、そちらの準備、引継ぎも開始いたします。この後の手続は、2024年9月に図書館条例の一部改正について市議会に議案を提出する予定です。これをもって、鶴川図書館を図書館条例から外す形になります。そして、2025年3月末日をもって鶴川図書館の公立図書館としての運営はここで終了させていただき、次の2025年4月1日からは民設民営化後の図書コミュニティ施設としての運営を開始していくという形になります。当然、図書館はこちらのサポートに入る形になってございます。

文学館長：続きまして、資料4-6をご覧ください。

文学館で実施しました「ことばらんどショートショートコンクール2023」受賞者の決定についてご説明申し上げます。

文学館において2023年7月1日から9月20日まで、市内在住・在学の小、中、高校生を対象に実施したことばらんどショートショートコンクール2023について、このたび、受賞者が決定いたしました。今年度は審査員長を務めるショートショート作家、田丸雅智さんや文学館学芸員による出張授業を10校で行うなどして、小学生404作品、中学生552作品、高校生46作品、計1002作品のご応募をいただいております。小学生部門、中・高校生部門から、それぞれ市長賞、教育長賞、東京町田・中ロータリークラブ会長賞、審査員賞、ことばらんど賞、そして、生誕100年を記念した今年度の特別賞である遠藤周作賞の6賞を選出いたしました。受賞者及び受賞作品は記載のとおりです。既に2024年1月27日土曜日に町田市民フォーラム3階ホールにおいて表彰式を実施し、表彰状の授与と審査員による作品朗読及び座談会を行いました。受賞作品や表彰式の様子などは表示の二次元コードから文学館ホームページに遷移していただくと、ご覧いただくことができます。また、2024年1月5日から2月4日まで、文学館1階サロンにおいて受賞した全12作品を審査員の講評とともに展示しております。受賞作品につきましては、今後、冊子を作成いたしまして、ご本人と市内の小中、高校に配付する予定です。

会 長：報告事項についてお気づきの点や質問はありますか。

B 委 員：鶴川図書館のことについて教えていただきたいのですが、「2日間で

延べ103人の方からご意見をいただき」というところで、主な意見の内容について教えていただきたいということと、それから、民設民営化以降の予算と申しますか、財政的にどのようなサポートができるのか、持続可能な民設民営化の図書コミュニティ施設としてどのようにやっていけそうなのかというところの感触を教えていただければと思います。

図書館長：まず1点目のご意見ですが、1つは、図書館的な機能はある程度、残していただきたいというご意見は当然ございます。それからもう一つは、鶴川図書館はすごく狭いので座れないです。そういう意味では、滞在したいというお話がいろいろありまして、種類によっては、例えば、小さい子と一緒に来られる、高齢者の方が来やすいとか、場合によっては物が食べられるとか、そういう滞在的なことを、特に模型を見ながらお話をいただいているので、そういうイメージを持たれた方が多かったですと認識しております。もう一つのほうですが、これから、こういうのをやるに当たって民間の方は大変だと思いますが、市から補助するような形で今考えております。そういう予算をつかって、これから考えていくという形になるかと思えます。

会長：図書館協議会でもこの話が結構話題になりまして、2つありまして、1つは、図書館としての機能がどの程度担保できるのか、それからもう一つは、新しい形で、本当にこれは変化の時代というか、それこそ様々なものが変化していく、いつまでも同じものにはならないということで、その1つの具体例みたいなものですね。ですから、これがうまくいくかどうかによって今後の図書館とか、コミュニティの運営とか、様々な在り方がまた課題になってきたり、あるいはそれが改善されたりするということになるかと思えます。ですから、あまり悲観的に考えず、前向きに取り組んでいくといいと思います。図書館協議会の中でもいろんな賛否両論は出ているところです。ただ、実際やる以上、しっかりやってもらいたいなと思うので、ぜひその辺は応援していきたいと思っております。

それでは、次に第7期生涯学習審議会についての方向性について説明してください。

生涯学習

総務課長：次が第7期の生涯学習審議会となりますが、そこでの変更点につい

て、ここでご説明させていただきます。

現在、生涯学習審議会と社会教育委員という2つの機関がございまして、いろいろな会議体、それからご意見をいただいたりしております。社会教育委員の方々には既にご説明させていただいているのですが、これまで生涯学習と社会教育で別々に審議を行ってまいりましたが、次の第7期の生涯学習審議会から社会教育委員の職務を統合して会議を運営していく予定でございます。

先ほど来から話があります、2024年度から開始する町田市教育プランでは、生涯学習推進計画を統合して、生涯学習と学校教育の両輪で学校と地域と連携して生涯にわたって学びを推進するというものを掲げております。この生涯学習審議会と社会教育委員の2つの機関を総合することによって、生涯学習という広い概念の下でこれから審議を行っていきたいと考えております。

これによって、生涯学習審議会ではこれまでなかなか取り上げてこれなかった、先ほど会長からお話があります26市の社会教育委員の発表する場となっている東京都市町村社会教育委員連絡協議会というものがあるのですが、そちらの協議会のご紹介をしたり、それから、これまで生涯学習審議会は年3回やっていたのですが、なかなかこの場だけでは審議を深めることができなかったというのもあったのですが、それについては部会を設けることができるというふうに変更いたしますので、部会を設けて対応することが可能となります。

以上のように、また第7期でいろんな審議をしていきたいと考えておりますので、今回、こちらの報告をさせていただきました。

会長：もともと社会教育委員は、町田市の中では生涯学習審議会の中核として、その方向性を担っていくということで始まったのですが、実際には社会教育委員だけでなく皆さんと一緒に一つ一つつくっていく部分が増えていくという感じもしています。

それでは、これで今期の議題は全て終わりになります。今日は最後なので、各委員からご挨拶をいただかねばと思います。

F 委員：いろいろと会議に参加させていただきまして、やはり社会教育に関するビジョンは自分なりに大いに広がったと考えております。とても検討しなければいけない事項が多岐にわたっているので、それを統一していく、収れんしていくことは、ある種、非常に困難も伴うような場面もいろいろあったと思うのですが、やはり会長がリーダーシップを

発揮されて1つの結論にまとめ上げていくというような会議の進行過程も含めまして、私もいろいろ学ばせていただいたと思っております。どうもありがとうございました。

J 委員：私はあらを探すような意見ばかり言っていて、皆さんにとっては非常に心苦しかったと思い、申し訳なく思っております。ただ、その気持ち、先ほどのパブリックコメントではないですが、市民の実需というか、要望に合わせた内容にさせていただきたいという切実な気持ちから、そういうことを述べたかと思えます。今後とも、関係者の方は頑張ってください。

I 委員：学ぶことの多い2年間でした。ありがとうございます。何年前になるのですが、ことばらんの白洲正子が歩いた「東京の坂道」というものに参加させていただきました。当時は珍しかった自転車に乗って通学したという坂道を歩きました。学芸員の方の説明でありましたが、知ることがとてもいっぱいありました。今デジタルが多いのですが、リアルな体験というのが大切だと思いますし、私はリアルな体験を楽しみたいと思っております。どうもありがとうございました。

H 委員：任期の途中から1年間、お世話になりまして、ありがとうございました。私どもでは、社会福祉協議会という名称のとおり、ボランティアセンターでは福祉的なボランティアを中心に担当している部分があるのですが、福祉がすごく幅広い分野だと思っていまして、本当に生涯学習に関わるようなボランティアさんとか、教育に関わるようなボランティアさんも登録していただいていたりするのですが、生涯学習センターさんでやっているボランティアバンクとか、学校支援コーディネーターさんが把握しているボランティアの方とか、私どもが把握しているボランティアとかが、個人情報の関係もあるので、G委員のところもそうだと思うのですが、いろいろ情報を持っていて、こういう活躍の場があるのと思いつながら情報共有がなかなか難しい壁もあってもったいないと思っておりますが、なかなかその打開策が分からないと思いつながら毎回参加させてもらっていました。

来期もあるので、ちょっと時間をかけて、そういったボランティアさんの情報共有とか、自分たちが本当はできることをもうちょっと共有できるといいのかなと思って参加しておりましたので、また来期も選任していただければ幸いです。お願いしたいと思っております。あ

りがとうございました。

G 委員：ありがとうございました。大変学びの多い期間となりました。今、H委員がおっしゃったことは私も本当に大賛成で、団体の情報なども各会や、そこにひもづく法人が持っている情報がなかなか一元化されていないので、そこが一元化されて市民に提供されていくと、とてもいいなと感じておりますので、何かご一緒できればと思っております。学校教育と生涯学習とか社会教育が一体化していくことが、なかなか今、市の計画の中でももっとほかの部分が重視されがちだとは思いますが、社会の基盤というか、一番基本になってくるところで、実は一番大事なところかと感じておりますので、もっと行政の中でもですが、市民が関心を持つことが、その重要性が市の中でも認知されていくことかなと思うので、教育プランのパブリックコメントの広報もですが、できた後、いろんな市民の方に知っていただく機会をたくさんつくっていただいて、市民の方が興味を持っていただけるようなきっかけができるといいなというふうに思っております。あと、初めて計画の中でプラン、P D C Aが、行政は計画をベースにするというのが基本だと思うのですが、そこを変えるというのは、ある意味ではとても画期的なことだと思うので、人を対象にした計画であるからこそ、計画どおりにはいかないことがあるからこそそのチャレンジだと思うのですが、ぜひ計画を推進するだけではなくて、社会変化に対応していくような進行が進んでいくと、すごくこのチャレンジが生きていくのかなと思うので、ここ発でほかの計画にも広がっていくといいなと思っております。ありがとうございました。

D 委員：どうもいろいろありがとうございました。学校としては、すごく学校は閉鎖的なので、いろいろな方々のご意見を聞く機会というのは本当に少ない場です。ここに来て、市民の皆さん、それから、いろいろな立場の皆さんのご意見をいただくことで今日のような発表ができたと思っております。私はあくまでも窓口になりますので、このことをいろいろな校長会、もしくはいろいろな学校関係の委員会でお話しして、もっともっと生涯学習とつながっていければいいかなと思っております。どうもありがとうございました。

C 委員：この会に参加して、生涯学習と学校教育、特に小学校で言えば、本当に学校教育のスタートで、自分たちのやっていることは何かない

うのがすごくはっきりしました。やっぱり大切なのは、今日もリアルというお話がありましたが、よく職員とも話すのですが、バーチャルリアリティーとかがあって、本物みたいと子どもは言うが、では、あなたは本物を見たことがあるのとか、体験したことがあるのというときに、多分、本物を見たことがないということが増えてくると思います。だから、ICT化を進めましようと言ったときに、今まで春の草花をスケッチしましようというときに、例えば、ある先生は、クロームブックを持って行って、それぞれが好きな花の写真を撮ってきて教室で描く。そうすると、うまく描けます。動かないし、その絵を写す。でも、そうではないのではないかと。やっぱり外で描いて、ちょっと風が冷たいとか、ぼかぼかしているとか、虫が歩いてきたとか、そういう中で描くから、その花の観察というのはすごく意味のあることで、もしかしたらデータで気温と風向とかが出るのかもしれないが、そういうことじゃない。感じるものがいっぱいあって、小学校はそこが大事だなということを改めて感じました。このプランの中のコラムの中に、デジタル化の中で学校は必要かみたいところもあって、そういう瀬戸際というか、学校教育の現場にいる人間が本当に今、生涯教育とかを考えたとき、子どもたちをどこに帰す、社会に帰すということを考えたときに、今やっていることを見直すことはすごく大事だということを、たくさん資料を読んだり、皆さんの意見を伺ったりする中で勉強になりました。ありがとうございました。

E 委員：1年間という短い期間ですが、お世話になりました。中P連ではどうしても会長が毎年替わる、もしくは2年ぐらいしか任期が受けられないというのもありまして、どうしても継続的に審議に参加することが難しい体制になっています。ただ、ここでお話しさせていただいたことや、町田市のお考えだったり、私たち保護者は何ができるのかというのは常に中P連でも考えていることでありまして、保護者代表として、現役の保護者として何か町田市と連携したり、地域と連携というのは学校単位でやっていると思うのですが、中P連は20校全て集まっておりますので、そういった会長たちの意見もこちらで代表として会長が言えるように、しっかりと20校連携していかなければいけないというふうに思いました。あとは、保護者は教育プランなどの計画は、知らない方が多いと思うので、もっと知ってもらうにはどうしたらいいのかなと、今日いろいろ審議を聞きながら、もっと簡単に保

護者にお伝えしないと分かっていただけないことが多いと思うので、その辺は学校と協力しながら、私たち中P連ももっとうこういうものを広めていけたらなと思います。ありがとうございました。

B 委員：皆さん、どうもありがとうございました。私自身は、ふだん、経営系のことをしておりますので、こういった形で生涯学習に関わらせていただくのは初めてで、非常に貴重な機会をいただいたと思っています。会長のお人柄や、事務局のフォローがありまして、多分、私自身もそうだったと思うのですが、委員の皆様もそれぞれ毎回の審議会ごとに忌憚のない意見をオープンに交わらせることができたのではないかと感じています。私にとっても非常に学びの多い任期となりました。また、今走っているプランの振り返りなどを通じて、こういうふうにプランというのはつくられ、そして実行されて、なかなか実行できないところにはこういう課題があるのかとか、そういったことも一市民としても非常に学びとなった貴重な機会だったと思っています。この新しいプランの実現に向けて、そして、これが進化していくことをさらに願って、最後のご挨拶とさせていただきたいと思っています。どうもありがとうございました。

A 委員：こういう場に出席させていただいて、私自身も非常に勉強になりました。多世代交流とか、それから、今、能登の地震とかでも地域のつながりみたいなのが1つキーワードかなというふうに思っています。今日、D委員の発表を伺いながら、町田で生まれ育った高齢者が中学生に行ってほしい、町田のよいところを教えられる場面があるといいと思いました。金井中学校の生徒さんと同じことを高齢者版でやっても面白いと思います。ナビタイムトラベルを活用されていると伺いましたが、多分、高齢者は知らないなので、それも学びにつながると思います。ここの会議の場で、終わらせるのではなくて、私自身も持ち帰って、次のバトンをつなげていければいいかなと思いました。前向きにいろんな取組ができるようにつなげていきたいと思っています。ありがとうございました。

会 長：ありがとうございました。さっき調べてもらったら、私は2014年からこの生涯学習審議会に関わっていて10年やっています。その間いろんなことがありましたが、いつも私が心がけているのは、なるべくみんなで話をするということです。だから、誰かが何かを言

って、それで決定するというのではなくて、もうちょっとみんな
でコミットしていろんなことができればなと思います。それから、
この生涯学習審議会のいいところは、一人一人みんな立ち位置が違
うところがあって、その立ち位置に伴って発言をするということだ
す。ですから、その立ち位置については別の人がそれを代替するこ
とができないので、その立ち位置を尊重しながらそのお話を伺うと
いうことで、非常に意味があるなと思います。私も校長を退職して
もう10何年ですが、全国的組織も含めて退職校長会というものがあり
ます。これはなかなかの力を持っていて、それがどんどん少なくなっ
ていきます。何を言いたいかというと、OB組織はすごく大事
じゃないかということです。町田は非常に豊かです。人材も、施設
も豊かだし、木々もあるし、多様性がすごくあります。だから、そ
ういうところは学びの場としてはすごくいいし、ここにおける生涯
学習は、ある意味では日本の縮図みたいなところがあって、いろん
なことを提言したり、発表したりすることもできるだろうなと思っ
ています。現実にはいろんなものが出てきて、今日のD委員の話の取
組や、それから、文学館の取組とか、人権についての取組とか、様々
なものが多様に起こっています。私も国際版画美術館の運営委員を
やらせていただいています。面白い。だから、そういうすごく多様な
ものがここにある。これはやっぱりすごく大事にしなきゃいけな
いだろうと思うし、P連がありますが、狛江市はP友会とい
うものがある。小中のPTA会長のOB会がある。これがな
かなか強い組織だそう。ですから、こことつながっていか
うかな。校長先生の場合には退職校長会がある。大体入ります。そ
うすると、全国とつながれる大きな組織です。ですから、リソース
はある。それと同じように、例えば町田市のPTA会長を経た人
とか、教育関係の、ここにいる行政の方たちもそうですね。行政系
の教育関係を経た人とか、それで退職なさった方がつながるような
組織が出てくるとすごくいいなと思います。現職の方がそれぞれ代
表として来ているのはもちろんですが、現職が終わっても、そのよ
うな組織みたいなものをつなげていくというのはあるかなと思いま
す。この生涯学習もたくさんの人たちを生み出して、たくさんの人
たちがここを去っていったわけですが、何かうまくそういう人たち
をつなげることができると、すごくいいものになるのではないかと
思っています。これはそう簡単にはできるものじゃないですが、そ
の方向を考えていきたいと思っています。

第6期第6回で、6で終わりにりましたが、次の会もまたありますので、引き続き委員になられる方はどうぞよろしくお願い致します。

それから、そうでない方、これで終わりという方も、せっかくだから、この教育プランとか、コメントを出していただくとか、いろんなことで、毎年これは振り返ることになるだろうと思うので、ぜひ忌憚のないご意見を出していただければと思います。

最後に、生涯学習部長、全体を統括してご挨拶をお願いできればと思います。よろしくお願いします。

生涯学習

部長：先ほど会長から第6期第6回というお話がありましたが、こちらの第6期の生涯学習審議会が始まりましたのも、まさにコロナ禍ではございましたが、6月ということで、2022年6月に第1回を開催させていただきまして、今回、第6回の生涯学習審議会ということで、第6期の生涯学習審議会、本日で最終回ということになってございます。

本日はD委員から貴重なご発表もいただきまして、本当にありがとうございます。これまで生涯学習総務課をはじめ、生涯学習センター、様々な場面で関わりを持たせていただいて、出張授業も、ほかの学校ではなかなかできないところ、ご協力もいただきまして、それをまたこのような形で発表していただいたことを感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、今期の審議会では主に教育プランの策定に関してご議論いただきました。皆様の多様な知識、あるいは経験を基にご意見をいただきましたこと、このプランの内容を高める上で非常に貴重なものであったと考えております。

そして、このたびお手元にお配りをさせていただきました町田市教育プラン24-28としてまとめることができました。まだ若干の修正はありますが、3月には策定ということで、教育委員会で承認を得ることになるという予定でございます。新しいプランの策定は、町田市の生涯学習、社会の実現に向けた大きな一歩と捉えております。引き続き皆様方のご支援とご協力をいただきながら、教育プラン及び生涯学習の推進に全力で取り組んでまいりたいと思います。

改めて、会長、副会長をはじめ委員の皆様には心から感謝申し上げます。これからも引き続き、ご助言をいただけましたら幸いです。

ます。事務局を代表いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。第6期生涯学習審議会、本当にありがとうございました。

会長：ありがとうございました。

これをもちまして第6期町田市生涯学習審議会議を全て終了させていただきます。ご協力どうもありがとうございました。

《資料》

資料1 町田市教育プラン24-28（原案）のパブリックコメントの実施結果について

資料2 町田市教育プラン24-28（案）

資料3 市立金井中学校における地域連携の取組について

資料4-1 生涯学習部の報告事項

資料4-2 「市民の歴史探求事始め～町田自由民権カレッジ4期生の成果～」の開催について

資料4-3 「まち歴」講座案内について

資料4-5 鶴川図書館における図書コミュニティ施設に向けた取組状況について

資料4-6 「ことばらんどショートショートコンクール2023」受賞者の決定について

資料4-7 「少女たちのお手紙文化1890-1940展変わらぬ想いは時を超えて」の開催について